

令和4年度 幼保小連携推進地区事業

実践報告

青葉区 恩田地区

- 認定こども園ナザレ幼稚園
- 横浜市立恩田小学校



テーマ
子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小連携

なぜ、幼保小をつなぐことが必要か

テーマ設定の理由



長い目で見ての子どもの育ちを実現するため
幼少期の教育が、その後の学校教育、さらに大人になってからの活動の基盤を作るため
それぞれの成果をつなぎ、連動してこそ生涯にわたる教育の基礎が培われるため

そのために

- 幼児教育と小学校教育の各々の充実が必要
- お互いの理解が欠かせない

認定こども園 ナザレ幼稚園

四恩は四端から始まる



人間の人格形成は、心の中にあるこれら四つの特性の発見から始まります。子どもたちは皆、自分の心の中にある「四端」を引き出し、これらを「仁」「礼」「義」「知」に育てあげるといふ課題を負っています。

これを導き、手助けすることこそが、私たちの教育の使命です。

ナザレ幼稚園ホームページより引用

恩田小学校 学校づくりのビジョン

「子どもを育てる」学校から
「子どもが育つ」学校へ



子どもたちが安心して自己発揮できる学校を
教職員、家庭、地域の方、みんなで
創っていききたい。

一人ひとりの子どもを徹底的に大切にし、
教職員が子どもたちの伴走者になりたい。

「この人に伴走してもらいたい」
と思ってもらえるような教職員でありたい
と思います。

推進内容

A 園と学校で進めるスタートカリキュラム
の開発、カリキュラム・マネジメント

B 保育参観や授業参観を通し
た教職員の連携

C 子ども同士の交流活動

昨年度ナザレ幼稚園と恩
田小学校の職員同士で植
えたブドウの樹がこんな
に大きくなりました！



A-1 スタートカリキュラム

園を参考にした教室環境であそびタイム（4月）



教室の片隅に園を参考にした遊びコーナーを設けました。
朝の支度が終わったら、たっぷり遊び、人間関係を深める時間をとることで安心感を育みます。

学年スペースには、廃材コーナーを設けました。
自由に造形あそびをしたり、おもちゃにしてあそんだり想像力を働かして過ごしています。

A-2 スタートカリキュラム 安心、楽しいを育むなかよしタイム（4月）



園での生活を参考にして、歌や踊り、絵本の読み聞かせなどから1日を始めます。
ゆっくりと朝の会へと移行しました。

A-3 スタートカリキュラム

やってみたい！を大切にしたわくわく・ぐんぐんタイム（4月）

園での経験を思い出し、話す時間を大切にすることで学びのルールを子どもが自ら作り、主体的な学習へつながるように促しました。

生活科：がっこうたんけん

「ミニおんだしよ
うがっこう」を
作って探検して見
つけてきたものを
伝えたいね！



生活：がっこうたんけん

この先はプールかな？
本当にあるのかな？
カギがかかっているよ！

同じ単元でも、子どもたちの個性や声から各クラスで進め方を変えています。

A-4 スタートカリキュラムの意義を 園や保護者に伝える

- スタートカリキュラム公開授業研究会に園の先生に参加してもらい、スタートカリキュラムの意義を共有しました。（B-2）
- 就学時健診・入学説明会にて校長がスタートカリキュラムについて説明しています。
- 学校ホームページにてスタートカリキュラムについて掲載しています。

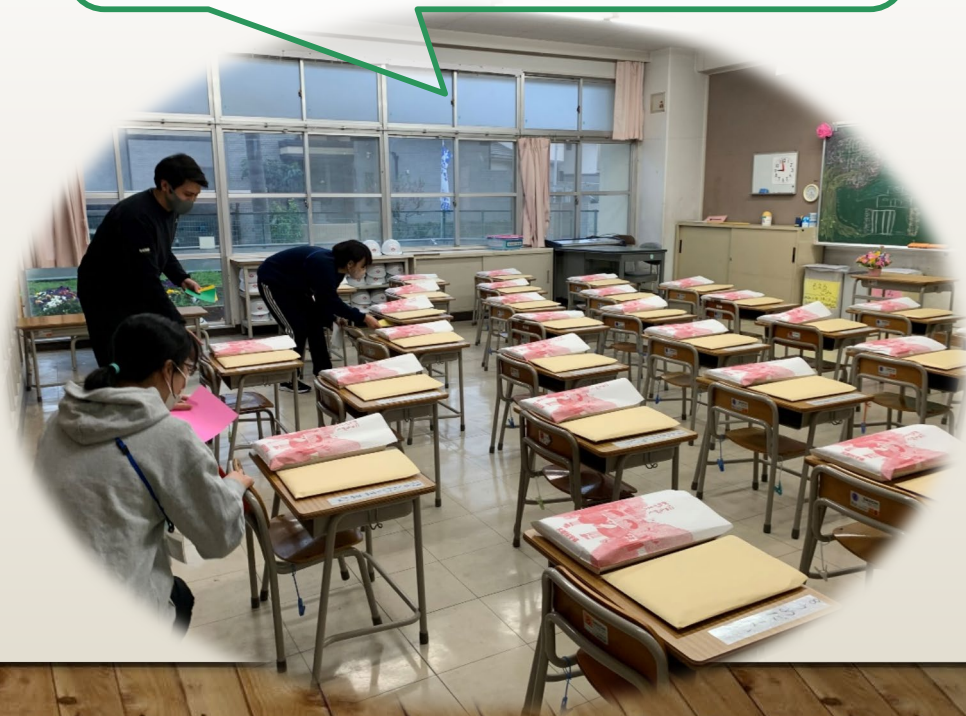


B-1 スタートカリキュラムミニ研修会（4月）



昨年の学校探検のビデオから子どもたちへのかかわり方を学びました。

入学式前、机の中に折り紙を準備して安心感を。



B-2 スタートカリキュラム公開授業研究会（5月）



國學院大學の田村学先生、吉永安里先生
こども青少年局の田村課長
をお呼びして、スタートカリキュラムの理念や
意義についての校内研修会を開きました。



スタートカリキュラム
の実態を知っていただく
ために、ナザレ幼稚園
の年長組担任の宮本
先生も一緒に研修に参
加していただきました。

「幼児期の終わりまで
に育ってほしい姿」を
手がかりにグループ協
議を行いました。「座
談会だけでもオンライ
ンにできないか」とい
うご要望にお応えし、
100名限定でオンラ
イン配信しました。

B-3 年長児クラスの保育参観、引き継ぎ

小学校で待ってるね。
他の先生たちもみんな
が入学するのを楽しみに
しているよ！



「好きなこと」
「得意なこと」
「困ったとき、ど
のように解決する
とよいか」などを
伺い、支援を引き
継いでいます。

園での子どもの様子を見せて頂きました。

C-1 ナザレ幼稚園かららんこやままでの校外学習（11月）

ナザレ幼稚園が近隣に保有するからんこやまをお借りして、秋探しや自然遊びをしました。年長さんとの交流もできるといいなと思いました。



C-2 ナザレ幼稚園の年長さんとの交流（12月）



一緒にチューリップの
球根とお花を植えよ
う！
入学したら見てね！

年長さんに分かり
やすいように会を
進めたいな！





A 園と学校で進めるスタートカリキュラムの開発、カリキュラム・マネージメント

成果

入学式の前から丁寧に準備を進めたので、園での様子や環境を参考にしたスタートカリキュラムを進めることができた。また、4月を午前授業にし、放課後は講師の先生方や管理職と今日の共有や今後の進め方について綿密に打ち合わせをすることで、見通しをもって子どもたちと関わることもできた。

学級通信の保護者のコメント欄より（抜粋）

- お友達とのあそびタイムが楽しいようで、水遊びのこと、洋服がいることを私にしっかり伝えてくれました。
- 自分のやりたいことをはっきり言えるようになりました！小学校に入り、「自分はこうしたい、だからこう進める」という計画まで立てられるようになりました。

課題

来年度以降、スタートカリキュラムについて園と話し合ったり、園に参観をしたりする時間を設けて、より深く連携を図っていきたい。



成果と課題

B 保育参観や授業参観を通じた 教職員の連携

成果

スタートカリキュラムの時期に校内の教員が多く授業を参観していたことで、学校全体で子どもたちを支える、理解する姿勢が感じられた。

5月の公開授業研究会で講師の方から話を聞いたり、園や他校の小学校の先生と話をすることで、全教員でスタートカリキュラムを理解し今後の子どもとの関わりを深めることができた。

スタートカリキュラム参観者の声より（抜粋）

- 2つのクラスの先生がそれぞれの先生らしさを発揮しながら、その瞬間瞬間で試行錯誤して、校長先生と相談をされながら授業の展開を考えたり、子どもとお話されたりしているのを見て、これはすごく幼児教育とのつながりがある世界が今築かれているんだなというのを強く感じました。

課題

コロナ禍であったため、授業参観や保育参観を一回ずつしかできなかった。来年度は是非、具体的な子ども姿を見合うことで連携していきたい。



C 子どもの交流活動

成果

今年度は、1年生と年長さんでチューリップの球根を植えたり一緒に交流をする機会を設けたりすることができ、来年度入学することを楽しみにし、期待感をもつことができたように感じる。1年生も年下の子と関わることで、相手意識をもって自分たちで会の流れを考えることができたので、達成感や自己有用感をもって次年度に進級できるように感じた。

課題

今年度は、小学校に園が来て交流する機会しか設けられなかったが、来年度以降は、園（からんこ山）にも園児と交流する機会を設けていきたい。